

平成 28 年度アジア安全衛生 SAKURA プロジェクト実施報告

平成 28 年度より国の補助事業としてスタートした「アジア安全衛生 SAKURA プロジェクト」は、前半で安全衛生の専門家によって日本国内で労働災害防止のためのノウハウや経験を伝える「日本国内における研修」を、また後半では海外拠点に日本から専門家を派遣して行う「海外における助言・指導」を組み合わせるものである。

平成 28 年度は、タイ及びインドネシアにおける日系企業の安全衛生担当者を主な対象とし、現地語(タイ語、インドネシア語)によりプロジェクトを展開した。平成 28 年 11 月からプロジェクト前半の日本国内における研修を各コース 5 日間実施し、平成 29 年 1 月から 3 月にかけて「海外における助言・指導」を実施したので以下のとおり報告する。

I 「国内における研修」の実施について

1. 実施日程

- ①タイ語コース:平成 28 年 11 月 7 日(月)～11 日(金)
- ②インドネシア語コース:平成 28 年 11 月 28 日(月)～12 月 2 日(金)

2. 参加者

- ①タイ語コース:15 名
- ②インドネシア語コース:8 名

3. 参加企業数

- ①タイ語コース:タイにおける日系企業 9 社
- ②インドネシア語コース:インドネシアにおける日系企業 7 社

4. 担当講師

マネジメントシステム審査センター 専門役
教育推進部ゼロ災推進センター 専門役
技術支援部マネジメントシステム推進センター 所長
技術支援部マネジメントシステム推進センター 専門役
技術支援部マネジメントシステム推進センター 専門役

5. カリキュラム(共通)

ゼロ災運動と KYT、日本の OSHMS、現場視察

II 「海外における助言・指導」の実施について

1. 実施日程

- ① タイ(バンコク):平成 29 年 1 月 26 日(木)~27 日(金)
- ② タイ(シラチャー):平成 29 年 2 月 15 日(水)~17 日(金)
- ③ インドネシア(ジャカルタ):平成 29 年 3 月 8 日(水)~9 日(木)
- ④ インドネシア(ジャカルタ及びスラバヤ):平成 29 年 3 月 8 日(水)~9 日(木)

2. 担当管理士等

- ① 技術支援部技術指導課 専門役、国際センター 専門役
- ② 技術支援部マネジメントシステム推進センター 専門役
- ③ 技術支援部技術指導課 専門役
- ④ 教育推進部ゼロ災推進センター 専門役

3. 実施概況

タイ語コースへの申込事業場である日系企業 9 社及びインドネシア語コースへの申込事業場である日系企業 7 社を対象に、中災防管理士等 5 名で各事業場を分担し、2 時間程度で「海外における助言・指導」を実施した。

具体的には、現地語通訳を伴い、中災防管理士等が現地事業場を訪問し、簡単な事業場概要の説明を受け、事業場内の安全衛生上の点検を実施した。点検時に発見されたりスク要因については、事業場担当者にそのリスクを指摘し、その災害防止対策などを日本語と現地語で説明した。また、事業場の安全衛生上の優れた点も評価した。管理士等の日本への帰国後、現地で口頭で指摘した事項を日本語文書にまとめて提供した。

4. 実施企業

タイ語コース:タイにおける日系企業 9 社

2の①の担当によりバンコク近郊(車で 2 時間以内)の 4 事業場

2の①の担当によりシラチャー近郊(車で 2 時間以内)の 5 事業場

インドネシア語コース:インドネシアにおける日系企業 7 社

2の③の担当によりジャカルタ近郊(車で 2 時間以内)の 4 事業場

2の④の担当によりジャカルタ及びスラバヤ近郊(車で 2 時間以内)の 3 事業場

Ⅲ プロジェクトの総括

本プロジェクトを通じ、企業間でレベルの差があるにせよ、今回プロジェクトに参加した日系企業は安全衛生活動に積極的に取り組んでいることを実感した。日系本社の支援をもとに安全衛生活動への取組の徹底を行っているところもあれば、現地の安全担当者が中心となり安全衛生活動を実施しているなど体制は様々である。

また、今回のプロジェクトへの各社の参加動機には、安全衛生活動の更なる充実や安全担当者のレベルアップなど様々であったが、多くの参加企業からはプロジェクトへ参加し多くを学んだとの声を数多く得た。特に、今回は現地語でプロジェクトを実施したため、より理解が進んだと思われる。

本プロジェクトで学んだ知識が自職場だけでなく、海外日系企業のネットワークの中でも知識が共有され、海外における日系企業全体の労働災害の減少につながることを期待したい。
29年度はベトナムがプロジェクト対象国となる。

以上